

七運汁

むかし、冬至の近づいたある日、村の一人の百姓がとてもくらい顔つきでたつあいに言いました。

「わしは何でこんなに運がないのだろう。今年もひとしばいはたらいたのに不作の連続。なんとか運のむいてくる方法はないものか。」

このはたらきものの百姓を、何とか元気にしたいと考えました。

「おまえの家では、冬至の日にかぼちゃとゆずを食べるだろう。でも、それだけでは運はむいてこない。こんどの冬至の日には、俺の言うことをやってみろ。」

「よし、やってみよう。」

「それじゃ、ん(運)の字のつく食

べ物を集めろ。たとえば、だいこん、にんじん、れんこん、ぎんなん、きんかん、いんげんを食べやすいように切り、しおとしょうゆで味つけた汁を作るんだ。煮えたら、その中にうどん(うどん)を入れて、家族中で、『来年もよい運がきますように』と神さま仏さまにいのりながら食べてみる。これは七運汁と言うんだ。これを食べてはたらけば、来年は、ん(運)のむくことまちがない。」

これを聞いて百姓は元気よく家へ帰り、冬至の日七運汁を食べたところ、次の年は大豊作。それから毎年冬至の日に、この温かい七運汁を作って食べることにしました。

